熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2024.2.5
第 227号
発行 入試・広報課

学長室から

竹屋 元裕

逆境こそ成長へのチャンス

1月24日の熊日1面に「九州看護福祉大が公立化要望」という記事が載りました。玉名市に公立化を要望し、藏原市長も前向きに検討するとのこと。3年後の2027年4月に公立化を目指すとのことで、実現すれば授業料が大幅に低減されることとなり、本学にとって大きな脅威となります。

周知の様に少子化は従来の予測以上に進んでおり、2022年の出生数は77万人で1899年の統計開始以来、過去最少の数字でした。2022年の大学進学者(大学+短大)は63万5千人と過去最高でしたが、推計ではたとえ大学進学率が幾分増加しても2040年の大学入学者数は約51万人まで減少し、その後10年間も50万人前後で推移するとされています。

この様な厳しい状況を乗り越えるためには「逆境こそ成長へのチャンス」ととらえて、「10年後も20年後も選ばれる大学」を目指した積極的な取組みが必要です。スポーツリハビリテーションコースの設置や令和7年度の保健師専攻科の開設もその一環です。キャリア教育研修センターを軸としたリカレント教育・リスキリング教育や大学院教育の充実など、具体的な取り組みも進んでいますが、魅力ある大学にむけてさらに新しい施策を進めていきたいと思います。

退任を発表された蒲島知事は東大教授時代に『逆境の中にこそ夢がある』という著書を出版され知事選に圧勝されましたが、農協職員から紆余曲折を経て東大教授になられた経験が熊本県知事としての手腕に大きく活かされました。その著書には「逆境こそが人生の成功の鍵になる」と記されています。「青い鳥」の作者でノーベル文学賞を受賞したメーテルリンクも「逆境はそれまで開いたことのない魂の目を開いてくれる」という言葉を残しています。

「逆境こそ成長へのチャンス」です。皆さんと共に様々なアイデアを出し合って、10年後も20年後も選ばれる魅力溢れる大学を目指したいと思います。

「逆境の中にこそ夢がある」と書かれた書の前で記念撮影する、右から蒲島知事、木下理事長、竹屋学長

退任表明の蒲島知事を表敬訪問

木下理事長ら 本学の取り組み報告

今期限りでの退任を表明した熊本県の蒲島郁夫知事を1月24日（水）、木下統晴理事長、竹屋元裕学長、古閑陽一特命副学長、河瀬晴夫事務局長が表敬訪問しました。

木下理事長らは、県内市町村や県立高校等との包括連携協定をはじめ本学のこれまでの取り組みを、銀杏学園通信「ぎんきょう」を示しながら報告し、引き続いての支援をお願いしました。蒲島知事からは「今後も熊本保健科学大学の発展と活躍を大いに期待する」との言葉をいただきました。田嶋徹副知事も同席し、話は化血研、KMバイオロジクスの話題にまで及び、予定の時間を大幅にオーバーするほど盛り上がりました。

この日は前後して、白石伸一教育長、沼川敦彦健康福祉部長も訪問。白石教育長は、年末にグランメッセ熊本で開催された「県立高校　学びの祭典」を引き合いに出しながら、「高大連携」について本学との連携をさらに強化していきたいとしていました。

また、沼川部長からは、県として健康づくりに力を入れており、現在展開中の「野菜くまモリ運動」に関して本学とも様々な形で一緒に取り組んでいきたい旨の話がありました。早速、本学レストランに「ひと口目は野菜から」「あと一品も野菜から」のスローガンを記載した卓上ＰＯＰを置きますので、ご覧ください。

（特命副学長　古閑陽一）

アカデミックスキル
支援センター

レポート

学生指導員 新年度メンバー決まる

総勢８人「成長の体験 共有したい」

アカデミックスキル支援センターの運営やライティング、プレゼンテーションに関する学習支援などに携わる学生指導員の2024年度メンバーが決まり１日（木）、センターで初顔合わせがありました。新年度は上級学生指導員１人、学生指導員７人の計８人が採用されました。

学生指導員は「共に学ぶ経験者」として学科、学年の違いを超え、学生一人一人に寄り添いながら、書くこと、話すこと、考えることについての相談に応じます。また、「アカデミックスキル」科目の教材用動画やアイデアあふれる授業資料を作成するなど、「学生の、学生による、学生のための授業づくり」を目指し、毎年幅広い活動をしています。

センターでは、「アカデミックスキルⅠ、Ⅱ」のリーダー学生経験者の中から、センターが行う研修を受講し、その後の査定に合格した人たちを指導員として採用しています。１セメスターごとに契約を更新しますが、次年度も継続を希望する場合は、年に１度の査定に合格する必要があります。新年度は、上級指導員を含む８人のうち、２人が継続、６人が新任です。今回、新たに採用された山中菜愛さん(看護学科1年）は「アカデミックスキル授業を受けて感じた様々な感動や成長の体験を、多くの人と共有したいと思い学生指導員を志望しました。今後は後輩達の良き手本となれるよう頑張っていきたいです」と意気込んでいました。

新メンバーは春休み期間中、新年度の「アカデミックスキル」科目開講に向け、授業コンテンツの開発等に取り組む予定です。（アカデミックスキル支援センター　松尾健志郎）

◇　　◇

2024年度学生指導員は次の通り。（敬称略）＝※は継続

▽上級学生指導員　※緒方萌恵（理学療法学専攻３年）

▽学生指導員　※有川晃司(医学検査学科２年)、徳山夕夏(同１年)、永田紗彩（同１年)、横田采奈（同１年)、齊藤里歩（看護学科１年)、山中菜愛（同１年)、 松本渉夢（理学療法学専攻１年）

センタースタッフから今後の活動内容などの説明を受ける2024年度の学生指導員たち

今週の1枚

春は確実に…

４日は立春。風はまだ冷たいですが、学内の梅は見ごろを迎えようとしています。４年生にとっては正念場の時期でもあります。白い可憐な花は「春は確実にやってくる」と皆さんの頑張りを後押ししているようです。

4年ぶり米国短期留学が再開

米国短期留学オリエンテーションが１月30日（火）、1201S講義室であり、今年度留学予定の学生16人がベネッセi-キャリア担当者から留学プログラムの詳細や今後の手続き、出発準備などについての説明を受けました。短期留学はコロナ禍のために昨年まで中断されており、４年ぶりの実施となります。

学生16人「異文化交流楽しみ」

学生たちは、２月25日（日）～３月24日（日）までの４週間、米国に滞在。この間、ホームステイをしながら全米最大の留学生受け入れ機関ELS Language Centersのヒューストン校で、平日午前中は英語の授業、午後には世界最大の医療センター訪問などさまざまなアクティビティを体験します。留学費用の半額程度を奨学金として本学が補助します。

留学生のリーダーには藤本翔大さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻３年）、副リーダーには寺岡海さん（同）が選ばれました。藤本さんは「英語のスキルアップや異文化交流が楽しみ」、寺岡さんは「自分の世界を広げたい」と意気込んでいました。

（入試・広報課）

週間行事予定（２月６日～13日）	
２ ／ ６（火）8:55～15:00	令和５年度大学院修士学位論文公開発表会（1304M講義室）